

未然に防ごうタイヤ損傷

JATMAが実施した昨年(平成17年)1年間の検査事業の結果、5つの損傷が目立って多いことが判りました。その内の上位3つの損傷について症状と原因をお知らせいたします。損傷の予防と早期発見にお役立てください。

以下に示す損傷の原因として共通しているのが、不適正な空気圧・負荷での使用。

JATMAが平成17年7月に実施したタイヤ点検では、乗用車のおよそ6台に1台が空気圧不足でした。

目立って多かった損傷

- トレッドセパレーション
- 偏摩耗
- コード切れ
- カット
- パンクひきずり

 損傷
 全体の

72%



月に一度は空気圧点検を実施しましょう。

最も多い3つの損傷の原因と注意点

トレッドセパレーション

損傷の状態

タイヤを構成しているゴムとコード又はコード層間が剥離する損傷で、変形や外側へこぶ状の膨れが現れる特徴があります。

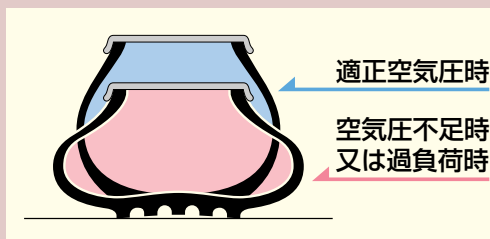


セパレーションを起こし変形している一例

主な原因

空気圧不足又は過負荷の状態で行くと、タイヤのたわみが大きくなり、異常発熱を起こします。そのため部材間の接着力が低下しセパレーションが起こります。

過度の屈曲を受ける断面図(イメージ図)



ここに気をつけましょう!

- 適正空気圧・負荷で使用しましょう。
- コードに達する深い傷を受けると、その傷口から水分等が入り、コードが錆び、セパレーションが起こることもあります。定期的に外観を点検しましょう。



外傷によるセパレーションの一例

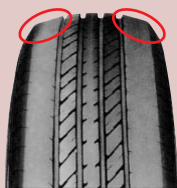
偏摩耗

損傷の状態

タイヤの摩耗は路面とタイヤ接地部間に生ずる摩擦力によって発生しますが、タイヤの使用・管理、車の整備不良又は運転操作などによって偏った摩耗を起すことがあります。

主に右のような状態が多く見られます。

主な原因



両肩摩耗

- 空気圧不足、過負荷による使用
- 無理な速度での頻繁な急カーブ走行



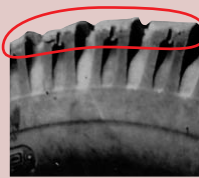
片側摩耗

- ミスアライメント
- 無理な速度での頻繁な急カーブ走行



センター摩耗

- 空気圧過多による使用



段差摩耗

- 空気圧不足、過負荷による使用

ここに気をつけましょう!

- 適正空気圧・負荷で使用しましょう。
- 車の足回り(アライメント、ブレーキ等)を点検・整備しましょう。
- 摩耗状態を観察し、必要に応じたローテーションを実施しましょう。
- 正しい運転操作(急発進、急停止、急旋回等)を心がけましょう。

コード切れ

損傷の状態

コード層が部分的又は全周にわたりタイヤの周方向や斜め方向に切断される損傷です。コードが切れた部分は内圧により外側へ膨らむことがあります。



主な原因

道路の縁石等乗り越えた際に、サイドウォールが縁石等とリムに挟まれ、コード切れが起こります。

タイヤ内面の挟まれた跡(跡が残らないケースもあります)



ここに気をつけましょう!

- 障害物はできるだけ避けて走行し、避けられない場合は速度を落として通過しましょう。衝撃を伴って障害物を通過した場合にはサイドウォールに異常がないか必ず点検しましょう。
- 適正空気圧・負荷で使用しましょう。